

令和 4 年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
芸術	書道 I	2	1 年 普通科 水産科 書道選択

科目概要と目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。	
教科書・副教材	書道 I (東京書籍)	
評価の観点と材料	知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けることができたか。 【評価材料】 授業中に制作した作品、制作工程
	思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることが出来るようになったか。 【評価材料】 ワークシート
	主体的に学習に向かう態度	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことができたか。 【評価材料】 出席状況、授業中に制作した作品、ワークシート
評価の方法	◎上記評価の観点について、それぞれ A・B・C の 3 つの段階で評価します。 「総合的にみて十分満足できると判断されるもの」 . . . A 「総合的にみておおむね満足できると判断されるもの」 . . . B 「総合的にみて努力を要すると判断されるもの」 . . . C	

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a（知識・技能） b（思考・判断・表現） c（主体的に学習に向かう態度）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点		
			a	b	c
4	書写から書道へ	・中学校書写で学習したことの復習もかねて、書写的な漢字仮名交じりの書を学習する。	○	○	
5	多様な書の美	・書写と書道の関係や違いを理解する。	○	○	
6		・書写の用具用材、用筆の基本について学習する。	○	○	
	漢字の書[楷書]	・楷書の成立について理解し、唐の四大家の書風について理解を深める。	○		
7	書作品の鑑賞	・それぞれの古典の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、臨書する。	○	○	○
		・古典の美について理解し、これからの発展された創作作品とともに鑑賞する。	○	○	○
8	漢字の書[行書]	・行書の成立について理解し、王羲之、空海の書風について理解を深める。	○	○	○
9		・行書の特徴を理解する。	○	○	
		・それぞれの古典の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、臨書する。	○	○	○
10	作品制作	・これまで学習してきた書体や技法を駆使して自分の好きな文字や言葉を作品に仕上げる。		○	○
11	漢字の書[隸書]	・隸書の成立について理解し、曹全碑や乙瑛碑を通して隸書の特徴や用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、臨書する。	○	○	○
12	漢字の書[篆書]	・篆書の成立について理解し、泰山刻石や石鼓文を通して篆書の特徴や用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、臨書する。	○	○	○

	篆刻	・篆刻の用具、用材や手順について理解し、創作する。	○		○
1	漢字の書[草書]	・草書の成立について理解し、千字文を通して草書の特徴や用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、臨書する。	○	○	○
2	仮名の書	・仮名の成立を理解し、仮名の美について考える。 ・仮名の基本的な用筆を理解し、字源を確認しながら単体を身につける。 ・仮名の連綿・変態仮名について理解と技術の習熟を図る。	○ ○ ○	 ○ ○	
3	漢字仮名交じりの書	・書道Ⅰで学習する漢字や仮名の古典を参考にして、創作する。	○	○	○

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名		科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
芸術		書道Ⅱ	2	2年 普通科 書道選択
科目概要と目標	書道の創造的な幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。			
教科書・副教材		書道Ⅱ（東京書籍）		
評価の観点	書への関心・意欲・態度	・書の創造的活動の喜びを味わう。 ・書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。		
	書表現の構想と工夫	・書表現の書要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。		
	創造的な書表現の技能	・創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身に付け表している。		
	鑑賞の能力	・文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさを創造的に味わっている。		
評価の方法	・各時間に指示した作品やプリントを提出し、評価を行う。 ・創作作品に関しては、臨書からの発展性・多様の美を重視して評価する。 ・作品のレベルだけでなく、どの程度上達したかを評価する。 ・授業中の態度、作品の提出率を評価対象とする。			

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a（関心・意欲・態度）b（構想と工夫）c（表現の技能）d（鑑賞の能力）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
4月	書芸術を深める	・書の変遷と芸術について学ぶ。	○			○
5月	漢字の書	・書道Ⅰでの楷、行、草書の学習を踏まえて、より个性的で多様な書の表現を鑑賞し、理解を深める。 ・古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する。	○			○
6月	[牛軋造像記]					
7月	[争坐位文稿]					
	[自叙帖]			○	○	
	[薦季直表]					
	[蜀素帖]					
	[王鐸]					

	書作品の鑑賞	・古典の美について理解し、そこから発展された創作作品とともに鑑賞する。	○			○
8月 9月	漢字の書 [開通褒斜道刻石] [敦煌漢簡] [甲骨文] [金文]	・書道Ⅰでの篆書、隸書の学習を踏まえて、より個性的で多様な書の表現を鑑賞し、理解を深める。 ・古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する。	○		○ ○	○
10月	作品制作	・これまで学習してきた書体や技法を駆使して自分の好きな文字を作品に仕上げる。	○	○	○	○
11月 12月	仮名の書 [関戸本古今和歌集] [継色紙]	・書道Ⅰの学習を踏まえて、日本独自の仮名の美を鑑賞し、日本の伝統文化を理解する。 ・仮名の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する。	○		○ ○	○
1月	篆刻	・篆刻の歴史や押印・発表の方法などを理解する。 ・創作参考作品を鑑賞する。 ・創作の手順に従い印を完成させて、押印する。	○ ○		○ ○	○
2月 3月	漢字仮名交じりの書	・漢字仮名交じりで書かれた名筆、古典を鑑賞し、漢字と仮名の調和について理解する。 ・名筆、古典の鑑賞を通して磨いた感性を生かし、漢字仮名交じりの書を書く。	○		○ ○ ○	○